

ネイチャーポジティブ推進分科会セミナー

DNP 大日本印刷株式会社

生物多様性の取り組み事例のご紹介

DNP

未来のあたりまえをつくる。



2026年7月17日

大日本印刷株式会社

技術・研究開発本部環境推進室

本日のアジェンダ

1. 会社概要
2. 生物多様性保全の目的と取り組みについて
3. 自然共生サイト事例紹介
4. 効果・外部評価について

1. 会社概要

(1) 創業150周年

DNP

創業
1876年

再建5か年計画
1951年

創業150周年
2026年

出版印刷

第二の創業

第三の創業

出版印刷

「文明の業を営む」
印刷を通して知識や文化を広め、
国家の近代化に貢献したい—
その思いでDNPは創業しました。

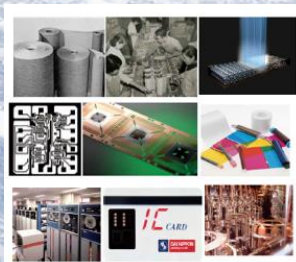
社会に価値を提供していくという
マインドは、150年にわたり
受け継がれています。



拡印刷

印刷技術の応用・発展で
事業領域を拡大

・包装・建材・エレクトロニクス
・情報セキュア・イメージング 他



P&Iイノベーション

印刷で培った技術・プロセス・スキルを起点に
「社会の変化を先読みし、
新たな価値を主体的に創出し、
社会に提供し続けます」

※「P&I」: Printing & Information



創業時から続く“挑戦のDNA”と“非連続的な発想による変革”

印刷技術の高度化、応用・発展

(2) 概要

- 創業 1876年（明治9年）10月9日
- 資本金 1,144億64百万円
- 売上高（連結） 1兆5,125億71百万円（2026年3月期）
- 従業員数（連結） 36,360名（2026年3月期）
- 拠点数（連結）

営業拠点：国内33／海外26

生産拠点：国内61／海外20（2026年3月現在）

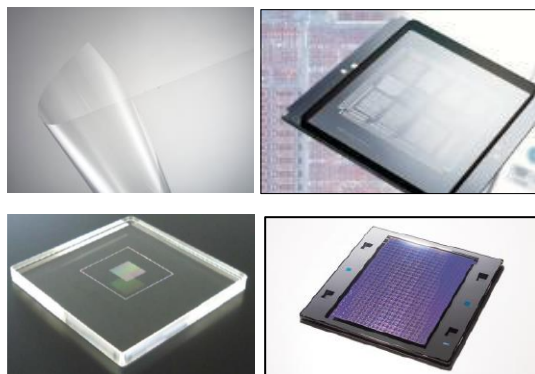
DNP



(3) セグメント別売上比率

● エレクトロニクス部門

2,518億円



● スマートコミュニケーション部門

7,503億円



● ライフ＆ヘルスケア部門

5,123億円



売上高
1兆
5,125億円
(2026年 3 月期)

注：セグメント間で重複する売上があるため、
各セグメントの売上の合計と全社の売上
とは一致しません。

(4) 企業理念、事業ビジョン、行動指針、ブランドステートメント

DNP

DNPグループビジョン

DNPグループの経営の基本方針。
「企業理念」を中心に、
「事業ビジョン」と「行動指針」で構成。
(2015年10月発表)



ブランドステートメント 未来のあたりまえをつくる。

DNPグループは、**人と社会をつなぎ、
新しい価値を提供**する。
私たちは、自らの様々な強みと、
外部のアイデアを組み合わせ、
新しい価値を創造する。
私たちは、話し合い、協働する。
**私たちがつくるのは、
未来の「あたりまえ」の価値**である。

P&I イノベーションとは

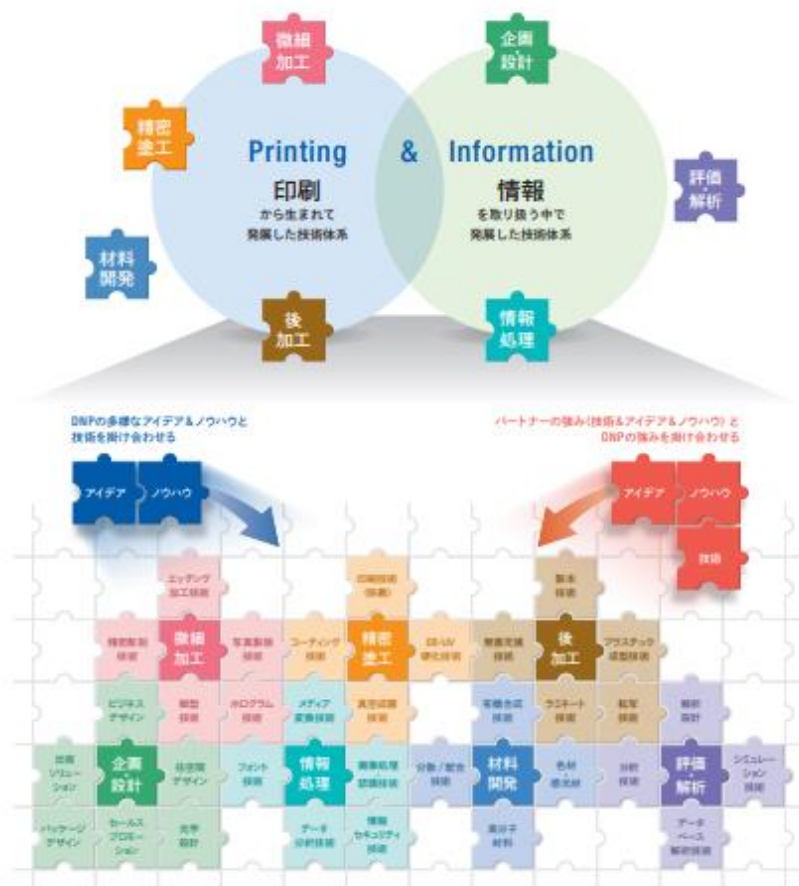
技術力に加え、営業力や企画力など、「DNPの強み」全般を代表する言葉を「P&I (Printing & Information)」として、それらDNPの様々な強みと、外部の資源やアイデアなどを組み合わせ、生み出す斬新なコンセプトや製品・サービスで、今までにない新しい価値を創造すること

(5) DNPの基盤技術

P&I イノベーション

DNP

技術力に加え、営業力や企画力など、「DNPの強み」全般を代表する言葉を「P&I (Printing : 印刷 & Information : 情報)」として、それらDNPの様々な強みと、価値創出のスピードを上げていくため、社外の多様なパートナーとの連携も強化して生み出す斬新なコンセプトや製品・サービスで、今までにない新しい価値を創造していきます。



【新規】コンテンツ・XRコミュニケーション関連

2021 リアルとバーチャルの空間を融合して新しい体験と経済圏を創出するXRコミュニケーション事業を推進



【新規】メディカル・ヘルスケア関連

2023 シミックホールディングスとの戦略的提携で、原薬から製剤の一貫製造や付加価値型医薬品の開発などを推進



【成長牽引】デジタルインターフェース関連

2024 世界トップシェアの有機ELディスプレイ製造用メタルマスクの生産能力を拡大：第8世代ガラス基板に対応した大型製品の製造を開始



【成長牽引】半導体関連

2023 SCIVAX社と合併会社「ナノインプリントソリューションズ」を設立：国内外からのナノインプリント製品の量産ニーズに対応



【成長牽引】モビリティ・産業用高機能材関連

2019 自動車内装用次世代加飾パネルを開発 (左)
2019 電気自動車向けワイヤレス充電用シート型コイルを開発 (右)



【基盤】イメージングコミュニケーション関連

2024 世界最軽量クラスの8インチ両面フォトプリンターを発売



【基盤】情報セキュア関連

誰もが快適で安心な生活ができる社会の実現をめざして「認証・セキュリティ」関連の各種事業を展開



(6) 印刷プロセスから見るDNPの基盤技術

DNP

印刷の 基本工程

1. 企画する

何を印刷するのか
アウトプットを 企
画・設計する

2. 情報処理する

印刷のための
原稿を整える

3. 製版・ 刷版をつくる

印刷のための
ハンコをつくる

4. 印刷する

印刷機にかけ、
刷る

5. 製本・ 加工を行う

綴じる・断裁するなどし
て形を整える

企画・設計技術

■多様なアイデア
&ノウハウに
よる企画・設計

情報処理技術

■情報セキュリティ
■画像処理認識
■データ分析
■メディア変換など

微細加工技術

■フォトリソグラフィー
■賦型、ナノインプリント
■光学設計
■回路実装など

精密塗工技術

■コーティング、蒸着
■色材、感材、合成
■EB-UV硬化など

後加工技術

■評価解析
■ラミネート、成形
■機械、検査
■無菌充填など

保有技術

製品・ サービス

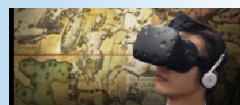


進化をつづけるDNPのオリジナル書体、
進化をつづけるDNPのオリジナル書体、
進化をつづけるDNPのオリジナル書体、

デジタルフォント



電子書籍



VR（仮想現実）



ICカード



半導体用回路原版
(フォトマスク)



リードフレーム



タッチパネルセンサー



偽造防止技術



昇華型熱転写記録材



反射防止フィルム



透明蒸着フィルム



住宅用内装材



書籍



植物由来包材



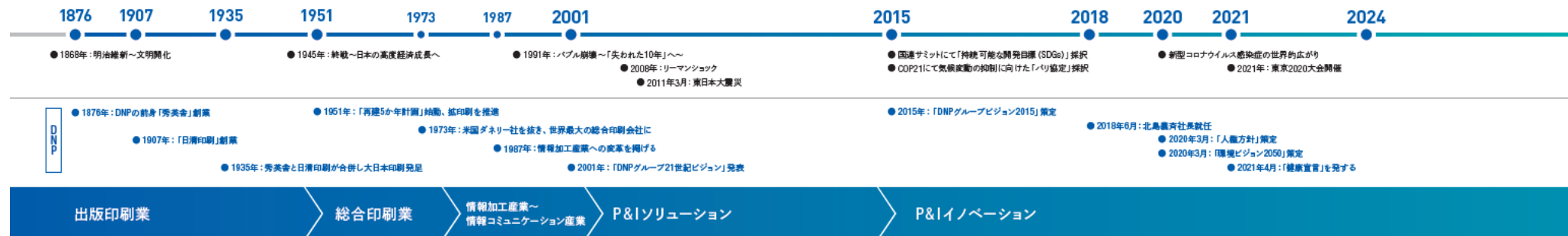
リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ



印刷物の絵柄検査装置

(7) 印刷技術の応用・発展による事業展開

DNP



多様な印刷プロセスを構築し、「P&I」（印刷と情報）の強みを進化
→印刷プロセスに立脚した技術体系の基盤を構築



1872 書籍「改正西国立志編」印刷

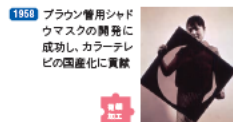


1945-49 民間企業として紙幣印刷の一部を担当

印刷技術の応用・発展で事業領域を拡大する「拡印刷」推進
→「第二の創業」を実現し世界で稀な「総合印刷業」へ



1951 紙幣・軟包装分野、建材分野に進出



1958 ブラウン管用シャドウマスクの開発に成功し、カラーテレビの国産化に貢献



1959 トランジスタ用露光マスク開発(左)
▶半導体用フォトマスクの事業拡大へ

1964 リードフレーム製造開始(右)

1964 東京オリンピックの印刷物担当

1970 大阪万博でペリオン館の出展企画を受託
▶企業関連の事業を拡大

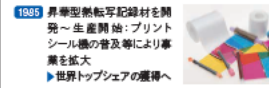
モノづくり&サービス、アナログ&デジタル、リアル&バーチャルなど、DNPならではのハイブリッドな強みの深化で事業を拡大



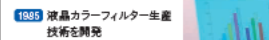
1972 コンピューター組版システム(CTS)本格始動(左)

1983 ICカードを開発(右)：国内初の書き換え可能ICカードを実用化
▶国内トップシェアの獲得へ

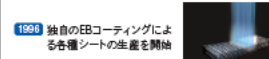
1985 世界初のCD-ROM版電子辞典を開発



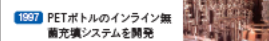
1985 昇華型熱転写記録材を開発～生産開始：プリントシール機の普及等により事業を拡大
▶世界トップシェアの獲得へ



1985 液晶カラーフィルター生産技術を開発



1994 独自のEBコーティングによる各種シートの生産を開始



1997 PETボトルのインライン無菌充填システムを開発



1997 ディスプレイ用反射防止フィルムの本格生産開始
▶世界トップシェアの獲得へ



1998 リチウムイオン電池用バッテリーパックを開発
▶世界トップシェアの獲得へ

DNP自身が直接社会や生活者に向き合い、社会課題を解決し、期待・ニーズに応える価値を提供する「第三の創業」の実現へ

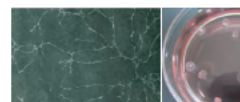
地球環境や人々の健康などに配慮した各種製品・サービスを展開



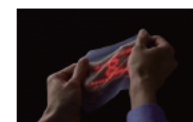
「DNP環境配慮パッケージング GREEN PACKAGING」の展開(上)、抗菌・抗ウイルス製品のラインアップの充実(下)、低反射フェイスシールドや低反射フィルムパーテーション等の開発・販売など



※SIAAマークはISO 22196に基づき、抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された製品に表示されます。



2004 毛細血管パターンへの印刷に成功(左)
2017 「ミニ臓」の研究開発に成功(右) ▶再生医療分野の事業へ



2018 東京大学と共同で、伸縮自在な薄型ディスプレイを開発：皮膚に貼るスキンエレクトロニクス



2014 電源無しで内部を長時間一定の温度に保つDNP多機能断熱ボックスを開発
2019 ▶第28回地球環境大賞の「大賞」を受賞



2003 太陽電池用部材を開発
2024 ▶両面発光型太陽電池モジュールの開発量を向上させるシートを提供開始



2017 曲面樹脂ガラスを開発：サンルーフ等において自動車の車体を軽量化

(8) 印刷技術の応用・発展による事業展開

DNP

スマート コミュニケーション 部門

高精細画像処理等の技術や、大量データをセキュアに流通しビジネスプロセスを最適化するノウハウを強みとし、安全・安心で多様なコミュニケーションサービスを展開しています。

イメージング コミュニケーション関連

世界トップシェアの昇華型熱転写記録材やフォトプリンターを100カ国以上で販売。さらに感動的な撮影体験や撮影データを活用したサービスを展開しています。



写真関連サービスソリューション

情報セキュア関連

高度なセキュリティ基盤を活用した、情報・物理セキュリティ、認証DX(Digital Transformation)、決済、BPOなどのサービスを通じて、働き方改革の実現や安全・安心な社会に貢献します。



顔認証システム

コンテンツ・ XRコミュニケーション関連

コンテンツホルダーの信頼に基づくIP(知的財産)管理や各種情報処理、リアルとバーチャルを融合するXR(Extended Reality)等の強みを掛け合わせ、人々の体験価値を向上します。



バーチャル授業

マーケティング関連

マーケティング戦略の立案から、デジタルとアナログ等のハイブリッドなコミュニケーション施策の企画・実行まで、DXを手段として最高の顧客体験(CX: Customer Experience)を実現しています。



出版関連

書籍・雑誌の製造、紙と電子の本の流通・販売に加え、グローバル展開、多彩なコンテンツの掛け合わせや二次展開、生涯教育や地域創生の環境構築・運営などを推進。人々の「知」を支えます。

教育関連

学びのプラットフォーム「リアテンド」等を展開。児童・生徒一人ひとりに寄り添った教育と、教員業務の負担軽減を実現します。多様な教育機会の提供などで、教育現場を支援します。

ライフ& ヘルスケア 部門

環境負荷低減や生物多様性の保全にも配慮し、独自の技術で、人々の心身をより健康に、毎日の暮らしをより安全・安心で快適なものにしていく価値を開発・提供し続けます。

モビリティ・産業用高機能材関連

トップシェア製品の強みと、デザイン・機能性の向上で、「移動」の価値を高める「次世代のモビリティ社会」の実現に注力。太陽電池向け部材等、社会変化に対応した高機能材開発もさらに進めます。



リチウムイオン電池用バッテリーパワチ

メディカル・ヘルスケア関連

パッケージや原薬の提供、製剤や、治療の支援等の強みで製薬企業を支援。医薬品の保存・流通に関する価値の提案や、生活者の健康維持・増進につながるヘルスケアソリューションも追求します。



包装関連

食品・飲料・日用品・医薬品等のパッケージをグローバルに届けます。地球環境に配慮した安全・安心で使いやすい製品・サービスにより、豊かな暮らしに貢献します。



生活空間関連

住宅や各種施設、自動車・鉄道車両など、あらゆる生活空間に新たな価値を提供。環境や健康への配慮、感性に響くデザインで生活の質を高め、彩り豊かな空間を構築します。



内・外装用化粧シート

飲料事業

DNPグループの北海道コカ・コーラボトリングが、ブランド力を活かした事業を展開。包装関連や情報サービス等との相乗効果も高めて、「オールDNP」で人々に価値を提供します。



エレクトロニクス 部門

大面積機能化技術、微細加工技術、ミクロ・ナノ造形技術、光制御技術など、DNP独自の技術と多くのパートナーの強みとの相乗効果を発揮。エレクトロニクス製品の価値を高め、暮らしを豊かにしていきます。

デジタルインターフェース関連

スマートフォンや車載用等の小型情報端末から大型のサイネージまで、多様なディスプレイを見やすく使いやすくする各種製品を開発・提供。カラーマネジメントなど色調が大切な医療向けや、XR(Extended

Reality)関連向けにも製品分野を広げています。リアルとバーチャルをシームレスにつなぎ、多様な情報を最適に表示するインターフェースを進化させていきます。



半導体関連

デジタルとアナログの調和した融合に貢献するDNPならではのファイン(高品質)な製品を国内外で提供しています。フォトマスクやリードフレーム等、半導体関連のキーコンポーネントを展開するほか、半導体



製造時の消費電力を大幅に低減するナノインプリント技術に不可欠なテンプレートを開発も進め、5ナノメートルのテクノロジーノード(プロセス)に対応しています。

Well-being
心豊かな暮らし



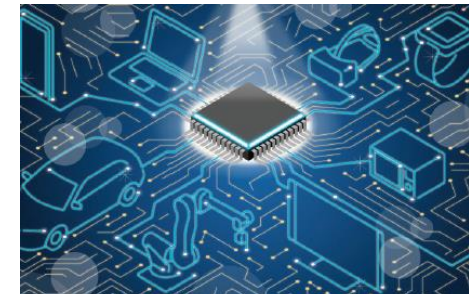
Sustainability
持続可能なより良い社会

(9) DNPについて

DNPは独自の「P&I」（印刷と情報）の強みを掛け合わせ、多くのパートナーとの連携を通じて社会課題を解決に取り組み、新しい価値を創出してきました。

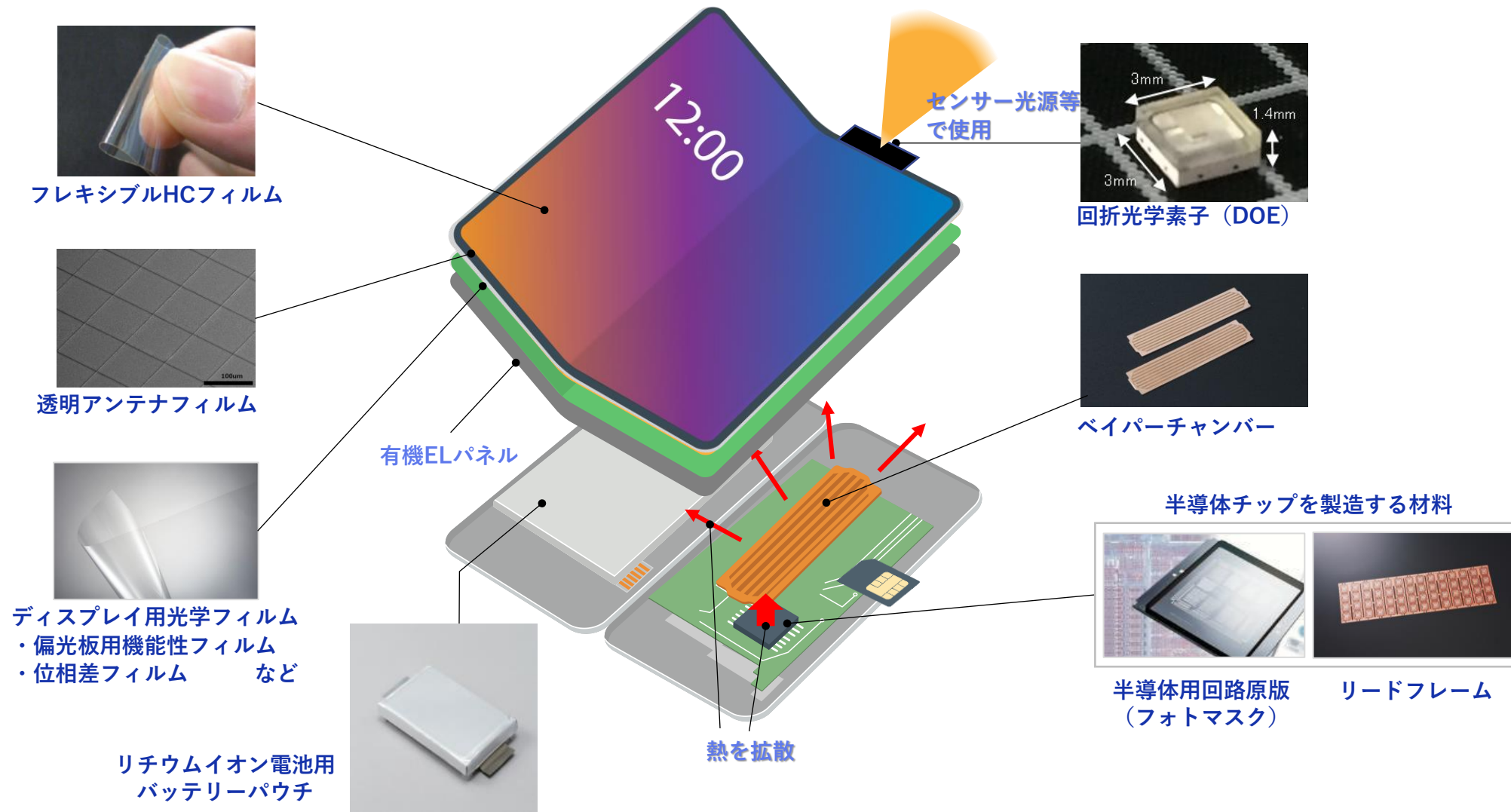
印刷プロセスに立脚した高度な技術を核に、**世界トップシェア**の製品を含む幅広い製品・サービスを展開しています。

2026年10月に創業150周年を迎えるDNPは、この節目を機に、「より良い未来」をつくり続けるためのさらなる挑戦を加速していきます。



(10) こんなところに使われるDNPの技術ー1

DNP



(11) こんなところに使われるDNPの技術-2

DNP



サイドバイザー



次世代加飾パネル



内装加飾フィルム



リチウムイオン
電池用バッテリー
パウチ



モビリティポート
(交通結節点を起点とした、人中心のまちづくり)

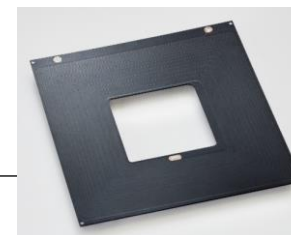
曲面樹脂
グレーシング



車載組み
NFCモジュール
(デジタルキー)



電気自動車向け
ワイヤレス充電用
シート型コイル

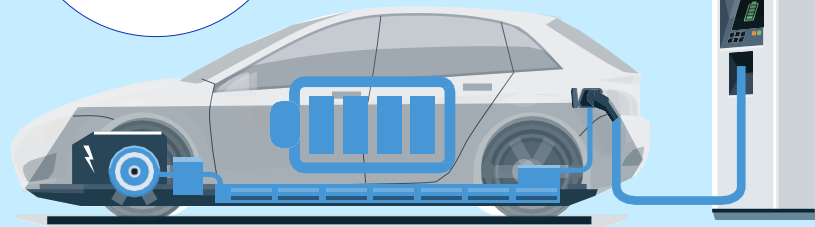


(12) トップシェアを誇る製品

DNP

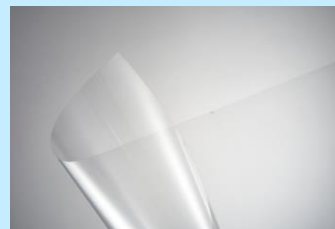
世界
No.1

リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ



ディスプレイ用
光学フィルム※

※ディスプレイ表面用の反射防
止フィルムおよび防眩フィルム
において



有機ELディスプレイ製造用メタルマスク



写真プリント用昇華型熱転写記録材



国内
No.1



非接触 IC カード
(金融系 IC カードなども
国内トップシェア)



住宅用内外装化粧材
(床・エクステリア用フィルム)



PETボトル用無菌充填システム

2. 生物多様性保全の目的と取り組みについて

(1) 地球を取り巻く生物多様性の状況

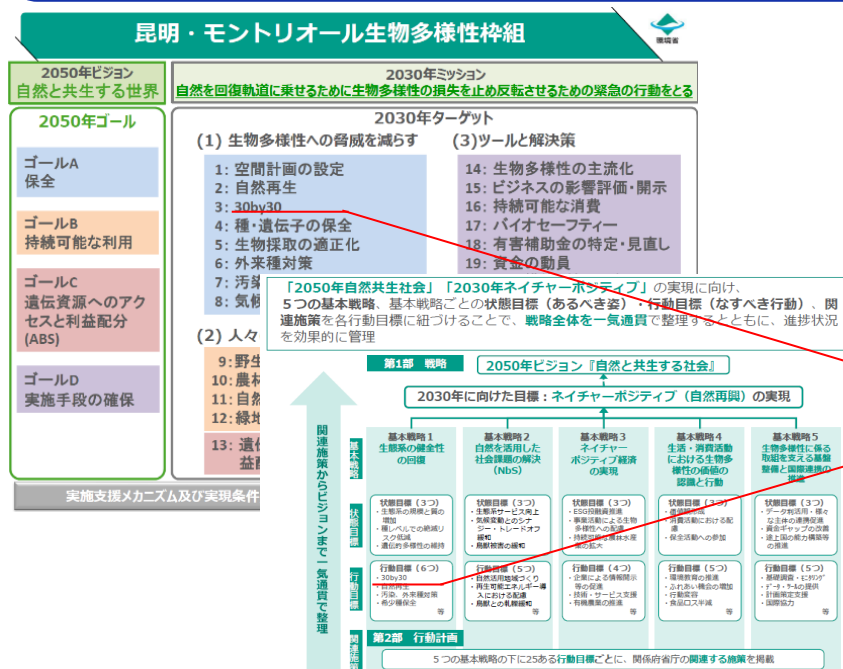
DNP



(2) 世界の生物多様性の状況 (生物多様性枠組条約・生物多様性国家戦略・30by30)

DNP

「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」の2030年グローバルターゲットのうち、(1) 生物多様性への脅威を減らすの中に「30by30」目標があります。また、「生物多様性国家戦略2023ー2030」においてもこの30by30目標を達成するために、国立公園などの保護地域の拡張と管理の質の向上だけでなく、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域 (OECM: Other Effective area-based Conservation Measures) の設定・管理を通して達成していくことを掲げています。



30by30目標

2030年までに
陸と海の30%
以上を保全

30by30目標を 主要施策により

達成

- 国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上
- 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域 (OECM) の設定・管理 = 自然共生サイト認定
- 生物多様性の重要性や保全活動の効果の「見える化」等 = 「見える化」マップ

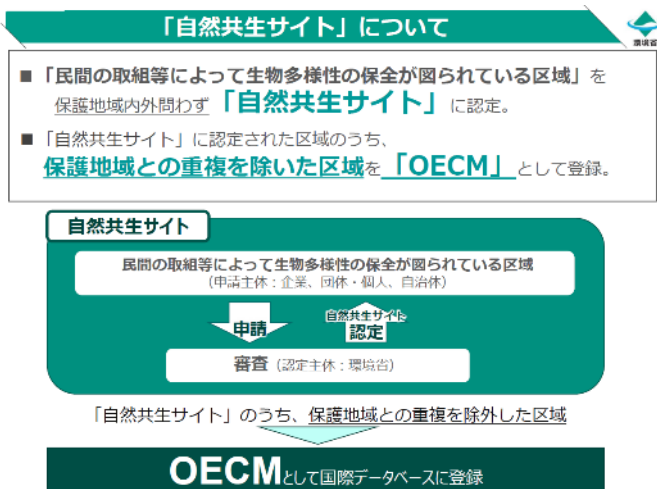
2030年ミッションとして、生物多様性の損失を止め、反転させる
「ネイチャーポジティブ」の実現

(出典: 環境省資料を抜粋、加工)

(3) 国内の生物多様性の状況（自然共生サイト・地域生物多様性増進法）

地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律
（令和6年法律第18号、地域生物多様性増進法）とOECM

令和6年度（2024年度）
までは以下の仕組みで認定



令和7年度（2025年度）から
申請・認定含む認定制度は、
「地域における生物の多
様性の増進のための活
動の促進等に関する法
律（地域生物多様性増
進法）」2025年4月施行

民間と市町村の特性に応じ、「増進」と「連携」の2つの計画認定制度。



法に基づき生物多様性を回復・創出する活動として認定を受けた場合は、認定後における回復・創出活動の継続の結果、生物多様性の状態が豊かになった時点（生物多様性の価値基準に合致する時点）でOECMとして登録。

環境省の認定制度

法律に基づく認定制度

(4) DNP大日本印刷のサステナビリティ経営について

DNP

ブランドステートメント

未来のあたりまえをつくる。

企業理念

DNPグループは 人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する。

サステナビリティ経営の考え方

持続可能な社会と心豊かな暮らしの実現をめざす

DNPがめざす「より良い未来」

安全・安心かつ健康に
心豊かに暮らせる社会



自ら変化を生み出し、変化に柔軟に対応することで、環境・社会・経済の持続可能性を高めていきます。

快適にコミュニケーションが
できる社会



リアルとデジタルをつなぐことで、得られる体験価値の質を高めるとともに、人々の活動の機会を拡げていきます。

人が互いに
尊重し合う社会



相互に理解を深め、認め合うことで、誰もがいきいきと活躍できる場をつくっていきます。

経済成長と地球環境が
両立する社会



環境保全・環境負荷の低減に取り組むことで、ネイチャーポジティブなバリューチェーンを実現していきます。

マテリアリティ
実現に
向けた戦略

事業戦略

注力事業の拡大と
構造改革の推進

財務戦略

キャッシュ・アロケーション
戦略の強化

非財務戦略

人的資本の強化

知的資本の強化

環境への取り組み

リスクマネジメント

サプライチェーンの強靱化、
情報セキュリティ、人権の尊重
コンプライアンスの徹底

(5) DNPグループ環境方針・DNPグループ生物多様性宣言

DNP

DNPグループは、環境問題への対応を重要な経営課題の一つとして位置づけています。社員ひとりひとりの環境意識を高め、調達から廃棄・リサイクルまでのサプライチェーン全体で環境保全の取組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 事業活動にともなう環境影響を把握し、環境法令を遵守するとともに、環境汚染の予防に努めます。
2. 気候変動の緩和に向け、事業活動におけるエネルギー利用の最小化、再生可能エネルギーの導入などにより、カーボンニュートラル実現に努めます。
3. 持続可能な資源の利用に向け、使用する資源を最小化し、廃棄物の削減およびリサイクルに努めます。
4. 生物多様性の保全に向け、地域生態系との調和に努めます。
5. サプライチェーン全体での環境負荷低減に向け、環境に配慮した製品・サービスの開発、普及に努めます。

以上を実現するため、環境マネジメントシステムを構築し、目的および目標を定めて運用するとともに、継続的な改善に努めます。

これらの活動に関する情報を適宜開示し、ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションに努めます。

2000年3月策定
2010年3月改定
2022年3月改定

DNPグループ代表 北島 義育

DNPグループ生物多様性宣言

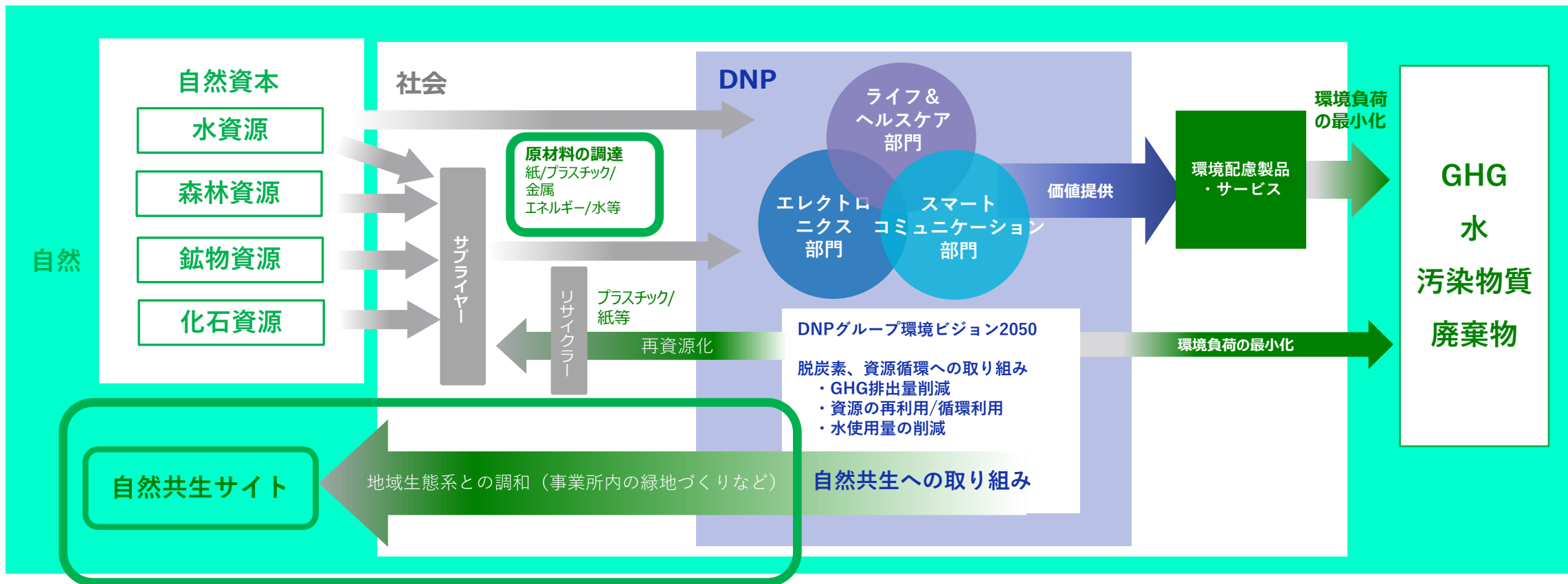
私たちは、自然の恵みに感謝し、事業活動が生物多様性に影響を与えることを認識して、生物多様性に対する社会的責任を果たすことにより、持続可能な社会の形成に貢献する。

1. 生物多様性保全を企業活動を行っていく上での重要課題のひとつとして捉え、事業計画、研究、企画、開発、設計、製造、販売などすべての事業活動において、生物多様性への影響を配慮する。
2. エネルギーの使用、水資源の利用、原材料の調達、化学物質や廃棄物排出などにおいて生物多様性への影響の評価、把握、分析を行い、その影響の低減に努める。
3. 生物多様性保全活動の環を拡げるため、得意先、サプライヤー、地域社会などのステークホルダーと生物多様性に関する認識を共有し、連携した活動を推進する。
4. すべての社員の生物多様性への理解と認識を高め、生物多様性保全の意識の向上に努める。

2010年3月16日
サステナビリティ推進委員会

(6) DNPと自然資本との関わりについて

DNP



DNPは、「**自然共生社会**」の実現をめざし、**バリューチェーン全体での生物多様性への影響を最小化し、地域生態系との調和を図る取り組み**を進めています。2010年3月に策定した「DNPグループ生物多様性宣言」に基づき、製品開発から廃棄に至るまでの事業活動における生物多様性との関わりを評価し、生物多様性の重点テーマとして「**原材料の調達**」と「**事業所内の緑地づくり**」を選定しました。

(7) DNPグループ環境ビジョン2050について

DNP

価値の創出と経営基盤強化の両輪で、環境ビジョンに掲げる3つの社会の実現をめざす

中期経営計画

主要課題

主要施策

脱炭素社会

気候変動の緩和と適応

循環型社会

資源の効率的利用

自然共生社会

生物多様性の保全

- ✓ 再生可能エネルギーの導入とサプライチェーン全体での排出量削減
- ✓ 低炭素製品・サービス開発および次世代エネルギー研究
- ✓ 資源循環（プラスチック・複合材料）等の高度化
- ✓ 原材料・水資源管理の高度化と生態系への負荷の最小化
- ✓ 原材料のトレーサビリティの確保によるサプライチェーンの透明化

中期環境目標

2030年目標

2019年度比 **GHG排出量**
Scope1+2 46.2%削減
Scope3 27.5%削減

スーパーエコプロダクツ*1
総売上高比率 30%

不要物全体に占める
資源循環率*2 70%達成

水使用量*3 30%削減

+

原材料の調達

- ★印刷・加工用紙調達ガイドライン適合率100%達成
- ★バイオマス材・リサイクル材の活用拡大
- ★サプライチェーンの透明化を推進

DNPグループ環境ビジョン2050

2050年目標

自社事業活動による
GHG排出量実質ゼロ

脱炭素社会の構築
製品・サービスで貢献

バリューチェーン全体で
資源の効率的循環利用

バリューチェーン全体で
**生物多様性への影響の
最小化、地域生態系との
調和**

DNPがめざす社会

脱炭素社会



気候変動の緩和と適応

循環型社会



資源の効率的利用

自然共生社会



生物多様性の保全

*1 スーパーエコプロダクツ：DNP独自の基準により特定した環境配慮に優れた製品・サービス

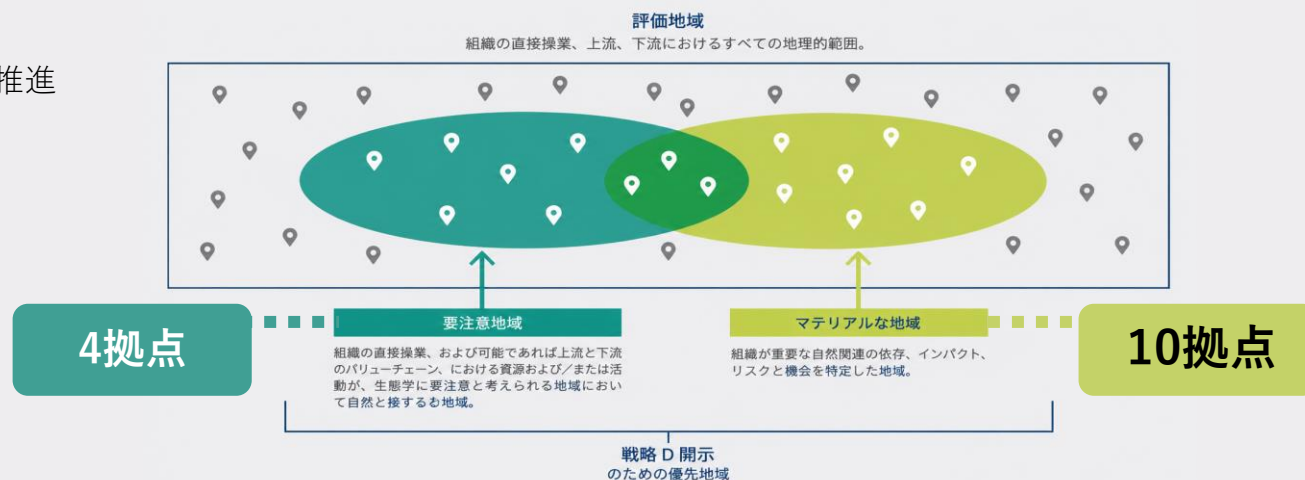
*2 資源循環率：紙の有価物等を除外した不要物のうち、マテリアルリサイクルまたはケミカルリサイクルされた割合

*3 水使用量：使用量の多い10拠点での水使用量原単位（2019年度比）

(8) 水使用量削減 水リスクへのマネジメント強化



TNFDの考え方を参考に、リスク評価、対策強化を推進



(9) 原材料の調達

原材料ごとに重点テーマを設定し、責任ある調達を推進

印刷・加工用紙

森林資源の保全

- 森林破壊ゼロに向けた調達
「DNPグループ印刷・加工用紙調達ガイドライン」
- 持続可能な森林資源の利用
間伐材や認証紙の利用を推進
- トレーサビリティの確保
原材料の調達先を把握し、透明性を確保

➡ 2030年度 ガイドライン適合調達比率100%

フィルム・樹脂

資源循環の推進

- バイオマス材の活用
バイオマス由来の原材料の利用拡大
- リサイクル材の活用
再生材の利用拡大を通じて
循環型社会の構築に貢献

➡ バイオマス材・リサイクル材の活用拡大

金属

責任あるサプライチェーン構築

- サプライチェーンの透明化
原材料の調達先を把握し、透明性を確保
- 人権・環境リスクの低減
原材料の低炭素化や人権リスク評価を含め、
責任ある調達を推進

➡ サプライチェーンの透明化を推進

主要原材料の
投入量
(2024年度実績)

紙

51%

樹脂

16%

フィルム

15%

金属 インキ その他

5%

5%

8%

(10) 生物多様性への影響の最小化、地域生態系との調和に向けた取り組み **DNP**

全国の事業所内緑地づくりや事業所周辺の生物多様性保全活動を実施しています。

各サイトの取り組み事例

全国の製造拠点で地域の生態系に配慮した緑地づくりを進めるなど、生物多様性への影響の最小化に努めています。

北海道コカ・コーラボトリング
白旗山の森づくり
製品に使用する水の水源地白旗山での植樹活動や自然散策を実施



DNP田村プラスチック萩原工場
「ツバメ子育て活」
益鳥であるツバメを工場内で保護
日本野鳥の会から感謝状を受領



DNPテクノバック
札幌工場
AMAサポーターズ倶楽部

DNPイメージングコム狭山工場
チョウゲンボウの保護



営業場所（工場屋上）の
生息域保全活動

DNPファインオプトロニクス上福岡工場
ギンランの敷地内保護



敷地に自生した絶滅危惧種ギンラン
の生育場所の保護

DNPデータテクノノ麻工場
ナガミヒナゲシの駆除



ナガミヒナゲシ（外来種）の駆除活動

DNPファインケミカル宇都宮
外来種ニセアカシアの排除

シミックCMO 足利工場
特定外来生物の駆除



敷地内に生息する特定外来生物
クビアカツヤカミキリの駆除

DNPデータテクノ牛久工場
技術開発センター
DNPエンジニアリング
霞ヶ浦アサザの域外保全



アサザを育成し霞ヶ浦に供す保護活動
NPO「アサザプロジェクト」に参画

DNPテクノバック柏工場
希少種「ナナ・コムラサキ」による緑化

東京・市谷「市谷の杜」

本社所在地である東京・市谷で「市谷の杜」計画を推進。
四季を感じる豊かな景観をめざす



DNPデータテクノ 奈良工場
奈良県絶滅危惧種の栽培
奈良県絶滅危惧種であるフシバカマを
栽培し、葉を乾燥させてにおい袋として活用



DNPメディアサポート
希少植物ミズアオイの育生
大阪府絶滅危惧種であり、過去にサイト
周辺に原生していたミズアオイを栽培



DNPテクノバック
DNPエスピーノバージョン 横瀬川工場
フジバカマ・半夏生の保護
絶滅危惧種フシバカマと半夏生の保護



DNPイメージングコム DNP生活空間
DNPファインオプトロニクス
岡山工場
地元産生のチガヤ草地づくりによるいき
もの生息域確保

DNPファインオプトロニクス
三原工場
エヒメアヤメ自生地保護

DNP四国
シオマネキの生息地保全
吉野川干渉のシオマネキ生息環境
の整備



ディー・ディー・ファイン
エレクトロニクス
北上工場
希少種の敷地内保護



DNP東北
高城町100万本
植樹事業

DNPテクノバック横浜工場
ノカンゾウの敷地内育成
「水マス推進サポーター」に認定



DNP田村プラスチック磐田工場
桶ヶ谷沼のトンボ生態系保全
ベッコウトンボをはじめとしたトンボ
の幼虫(ヤゴ)の生育環境整備



名古屋地区
ジャコウアゲハの誘致
絶滅危惧種ジャコウアゲハが
飛び交う緑地をめざす
**庄内川ペーパー
プロジェクト**
ラムサール条約で保護され
た瀧前干潟保全活動



3. 自然共生サイト事例紹介

(1) 自然共生サイトについて



生物多様性「見える化」マップ

自然共生サイト検索ナビ

検索条件

開放状況で検索

－ 選択してください －

生物多様性の価値で検索

－ すべて －

認定時期で検索

－ すべて －

～

－ すべて －

自然共生サイト名で検索

申請者名で検索

大日本印刷

面積 (ha) で検索

～

申請主体区分で検索

－ すべて －

キーワードで検索

適用

キャンセル



データ一覧



凡例



背景地図

守山の杜

ズーム

【申請者】大日本印刷株式会社
【都道府県】愛知県
【市区町村】名古屋市
【面積(ha)】0.0602
【詳細】 [サイトの詳細や、最新の情報はこちら！](#)

大日本印刷(株) 市谷の杜

ズーム

【申請者】大日本印刷株式会社
【都道府県】東京都
【市区町村】新宿区
【面積(ha)】1.56
【詳細】 [サイトの詳細や、最新の情報はこちら！](#)

1 / 2

(2) 市谷の杜

R4後期【No.11】

サイト名：大日本印刷株式会社 市谷の杜

申請者：大日本印刷株式会社

【場所・面積】東京都新宿区、1.56ha

【管理目的】

- 市谷の杜は、本社のある東京・市谷地区における再開発の一環で創出した有効空地であり、この場所ならではの自然に近い緑地の創出を目的とする。

【サイト概要】

- 地域固有の在来種のみからなる緑地で、武蔵野の雑木林をイメージした落葉広葉樹を中心に植栽し、常緑樹を織り交ぜた多様性あふれる自然の森である。

【サイト周辺の状況】

- 本緑地は東京都新宿区の都心に位置しており、周辺は住宅地域である。広域にみると、北に新宿御苑や皇居、南に小石川植物園などが位置しているが、新宿区内でも緑地の少ない地域である。

【土地利用の変遷】

- DNPは、当該地区で約135年にわたり、出版印刷を中心に幅広く事業を展開してきた。1990年代後半から、事業の方向性を検討するとともに、地区全体の街づくり計画として東京都および新宿区の都市計画に沿った検討を進め、2009年「市谷本村町・加賀町地区 都市計画」として、都市計画に決定された。これに伴い建物の建て替えを実施し、開発地区の人工地盤上に「都市における新しい森づくり」として、有効空地に緑地を創出した。

【活動のアピールポイント】

- 都市再開発として、モノづくりの機能を地下に置き、高層棟などを有効に活用することで、周辺住宅地と調和した大規模な緑地「市谷の杜」の創出計画を進めてきた。都会の中で四季を感じられること、地域に親しまれること、明るく安全であることを基本とし、この場所ならではの自然に近い緑地をめざした。武蔵野の雑木林をイメージし、植生はすべて地域固有の在来種からなる。また尾根部、谷部、斜面などそれぞれの地形に適した植生群を植栽した。一方、施設利用者や地域住民、安全性にも十分配慮し、植栽のゾーニングを行った。

区域全体図・写真①



区域全体図・写真②



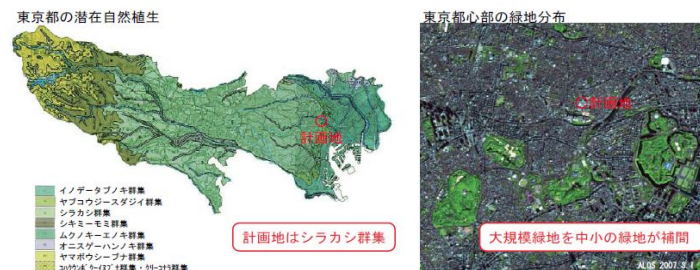
(3) 市谷の杜 ご紹介のポイント 1 武蔵野台地の雑木林をイメージ

DNP

古地形



植生

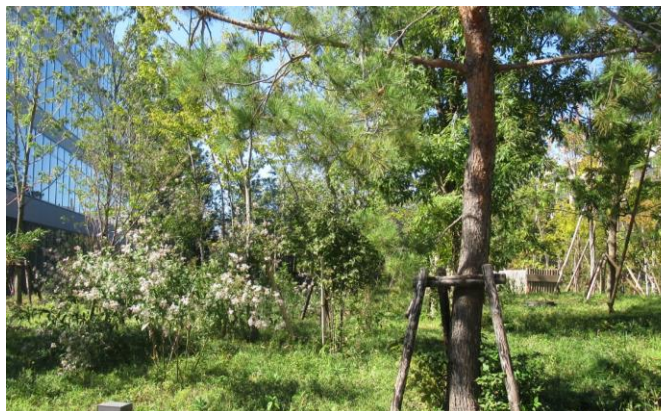
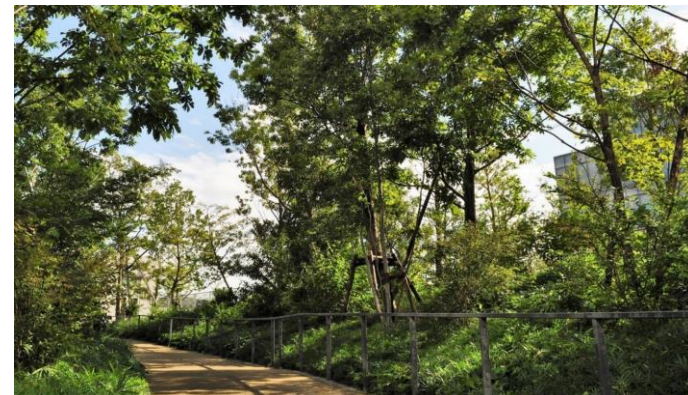


歴史



歌川広重
『名所江戸百景』「市ヶ谷八幡」

市谷地区の古地形・植生・歴史



市谷の杜 コンセプト
明るく親しみやすい落葉広葉樹を中心としながらも、
荘厳さと静けさが感じられる常緑樹が織り交ぜられた
多様性あふれる自然の森

(4) 市谷の杜 ご紹介のポイント2 立地条件と利用面の両方から植生を選定

DNP

広域でケヤキ林を配置、多様な植物により色彩豊かに



エントランス広場の平坦な緑地

立地条件：スダジイ林、コナラ林

利用面：明るく視野が開けた印象が◎

⇒コナラ林を選択



歩道沿い

通常の緑地より少ない低木の密度



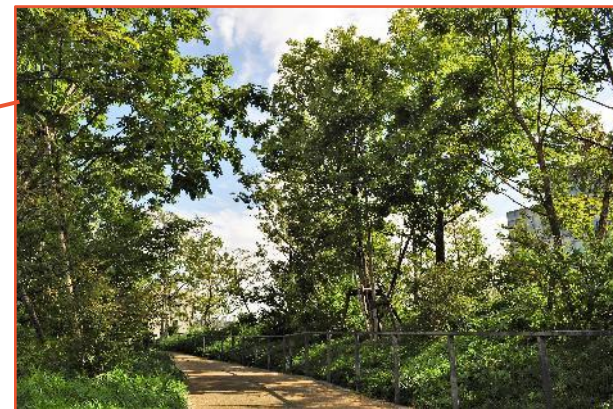
斜面部

イロハモミジを多用し渓谷のような景観を創出



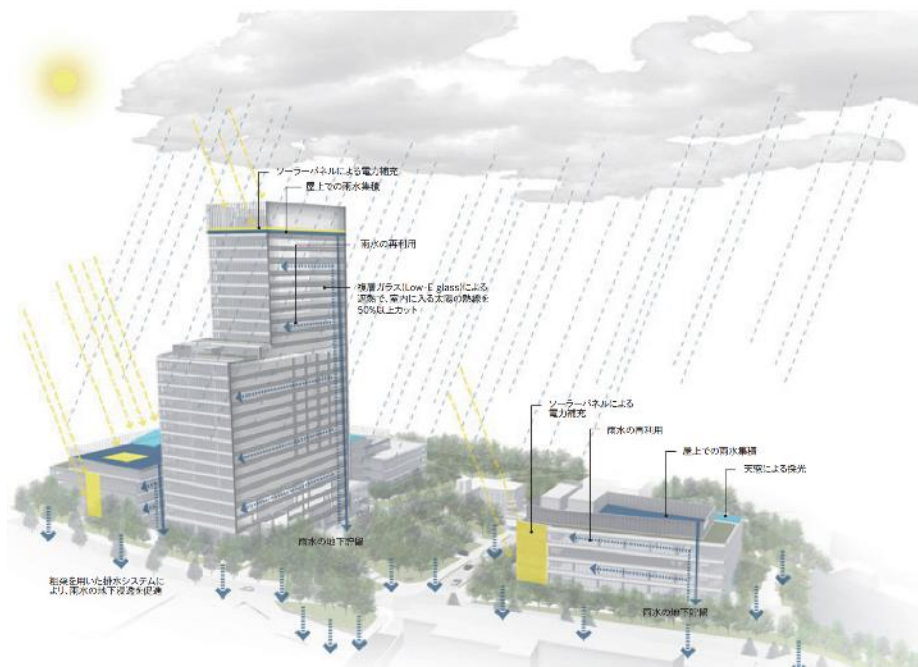
利用面：防風効果が必要

⇒起伏の高い部分はスダジイ林を選択



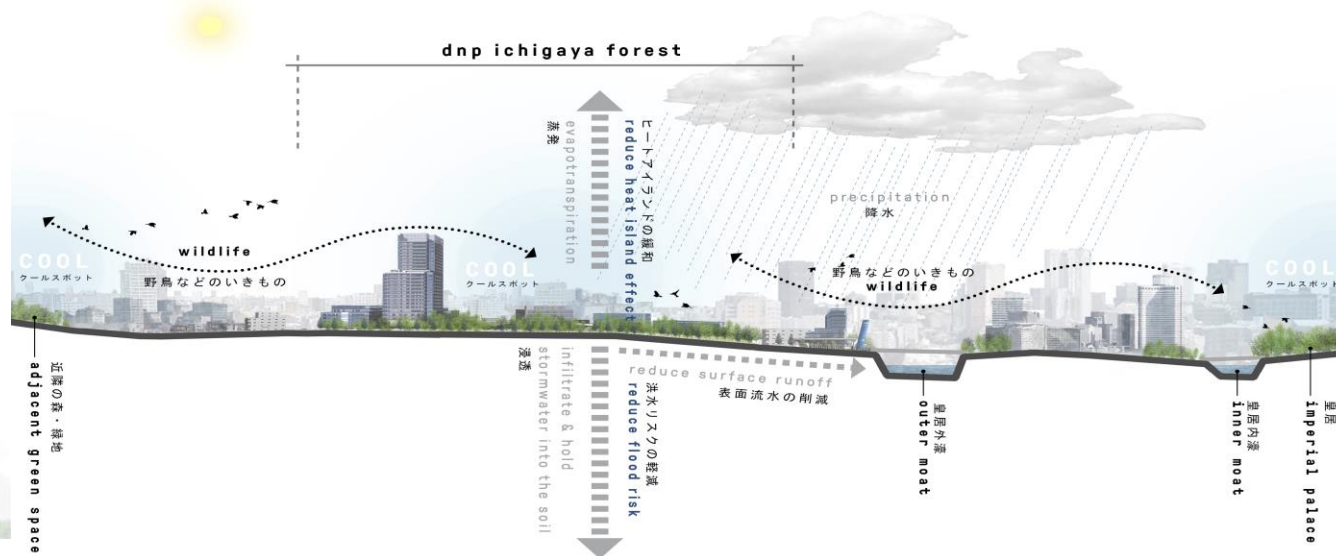
(5) 市谷の杜 ご紹介のポイント3 緑のインフラ

DNP



ecological network / resilient city

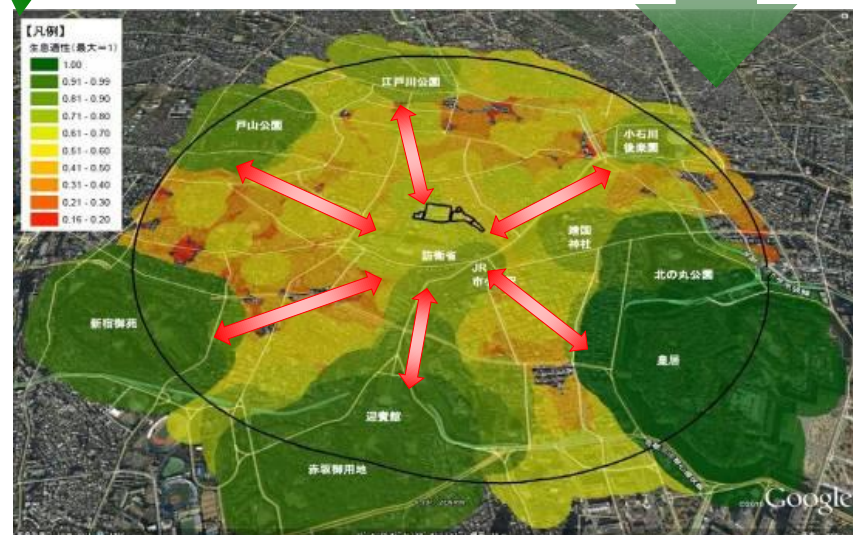
グリーンインフラストラクチャーとして機能する森 -resilient city に向けて-
dnp ichigaya forest will prevent localized flooding and make the city
more resilient in the face of typhoon or large storm event



- 建築・ランドスケープが一体となり、CO₂排出量削減や雨水の地下浸透促進などに向けて、様々な環境親和型システムを設置
- 野鳥などの生物が生息・移動できる生態系を創出

(6) 市谷の杜 ご紹介のポイント4 生態系ネットワークづくり

DNP



(7) 市谷の杜 ご紹介のポイント 5 まだ、杜を創っています!!

DNP



 : 2015年創出エリア

 : 2022年創出エリア

 : 新宿区提供公園

※その他緑地部分は計画エリア

(8) 市谷の杜 市谷の杜特設サイトへお越しください!!

DNP



市谷の杜
集う。だから、生まれる。
@DNP

市谷の杜

“市谷の杜”の成り立ち >

市谷に息吹く
“未来のあたりまえ” >

“市谷の杜”見どころ
マップ >



市谷の杜

人と自然が共生し、
“未来のあたりまえ”をつくる。



〇●〇〇 < || >

<https://www.global.dnp/ja/sustainability/ichigaya-forest/>

(9) 守山の杜

様式1-2 別紙2

大日本印刷株式会社 守山の杜 活動計画の概要

申請者：大日本印刷株式会社

【創出タイプ】

【実施区域・面積】

愛知県名古屋市守山区、 0.0602ha

【生態系タイプ】

創出緑地

【実施区域の状況】

‘価値4’として在来のチガヤ、ササ類、カワラマツバ、ワレモコウ、ノアザミ等の草丈があまり高くならない明るい草地を中心とした緑地を保全することで生態系連鎖を活発にして、多様な動植物が来訪・生息する緑地を維持している。水辺において、雨水・井水による水位・水質管理を実施することで、在来のトンボ類やカエル類の生育・生息を水辺を維持している。緑地や水辺の定期的なモニタリング結果をもとに行政・企業・協議会などの各主体、専門家、有識者からの助言指導の下、活動計画の定期的な見直しを行い、緑地環境、水辺環境を良好な状態に維持している。守山の杜および事業所内・事業所周辺の外来種を駆除することで在来種を保護している。在来の動植物種が生息生育している場としての価値を社内外の環境教育・企業の環境価値として活用している。

【目標】

- ・庄内川法面から続く背丈の低い多年生草本群落を維持・拡大し、希少種が生育できる草地を中心とした緑地を創出することで、従来の河川敷環境を再生し、地域固有の生態系を保全する
- ・緑地内にある水辺において、地域固有の在来種の域外保全が実施できる環境を整備する。
- ・緑地及び緑地周辺の定期的なモニタリングや除草により、外来種の侵入を抑制し、地域固有の在来種が生育・生息できる環境を維持する。
- ・これらの維持・管理した文化的資産について事業所イベントなどで社員及びその家族、地域住民の教育コンテンツに活用していく。

【主な活動内容】

- (1) 希少種の保全活動
- (2) ピオトープにおける保全活動
- (3) 創出緑地の外来種の駆除
- (4) 情報の収集と普及・啓発活動

【計画期間】

2026年3月～2031年2月まで

創出緑地：守山の杜



(10) 守山の杜 ご紹介のポイント1「地域生物多様性増進法」のもと認定

★大日本印刷 名古屋事業所が作成した「増進活動実施計画」と「その対象区域」を創出タイプとして認定。



JBIB生き物調査
土地利用通信簿
評価を実施。
ジャコウアゲハ
の保護活動開始

バードバスの
設置とムク木を
植樹

2012

2013

中部環境事務所から
イタセンバラの
保護について提案
守山の杜の将来構
想を検討。



2014

2015

池の拡張工事
とクヌギを植樹。
イタセンバラの
保全からトウカ
イヨシノボリの
保全を検討開始



2016

- ・東部丘陵生態系
ネットワーク協議会
へ参加
- ・吸蜜樹木として
ネジキ3本・ヤマ
モモ1本・カラス
サンショウ3本・
ミツバツツジ5本・
シマトリネコ1本を
植樹



2017

2018

ウマノスズク
サの育成を継
続実施。
岐阜大学
向井教授に
拡張した池
で
トウカイ
ヨシノボリの
保全が可能か
助言有。池の
大きさ拡張と
深さが必要。
新たな池の
創出を検討



2019

あいち森と緑づ
くり生態系ネッ
トワーク成事業
交付金事業とし
て新たな池の創
出工事完了



2020

あいち森と緑づ
くり生態系ネッ
トワーク成事業
交付金事業とし
て新たな池の創
出工事完了



2021

- ・モニタリングを開始。
- ・ウマノスズクサの育成
を継続実施。
- ・石積みハビタット設置。
- ・刈り残しハビタット設置
- ・アクションカメラによる
モニタリング開始。
様々な動物の来訪を確認。



2022

2023

2024

2025



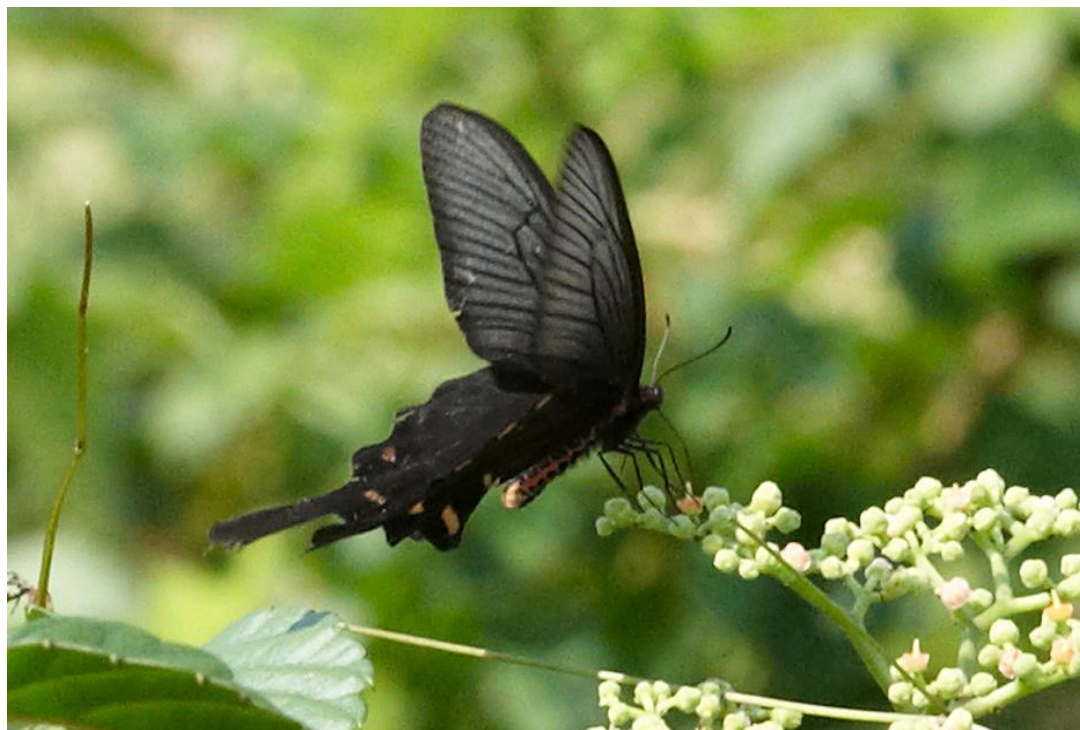
(11) 守山の杜 ご紹介のポイント 2 「価値4」「価値6」のある杜

DNP

価値4 生態系サービス提供の場であって、
在来種を中心とした多様な動植物種
からなる健全な生態系が存する場。



価値6 希少な動植物種が生息生育している場
あるいは生息生育している可能性が高い場



名古屋市版レッドデータブック
準絶滅危惧種（NT）「ジャコウアゲハ」
が生息。生物調査で確認。

(12) 守山の杜 ご紹介のポイント 3 指標種：ジャコウアゲハのライフステージ環境を創出

- 自然共生サイトの価値4に基づき、**指標種であるジャコウアゲハを保護**しています。
- 国土交通省庄内川河川事務所許可のもと、堤防南側法面に自生しているジャコウアゲハの植草である**ウマノスズクサ**を緑地内で数株栽培し、株分け後、緑地内フェンス際に配置することでジャコウアゲハの**ライフステージ環境を緑地内に創出**しました。



(13) 守山の杜 ご紹介のポイント4 水辺の創出

DNP

➤ 生物多様性に関する知見・経験とともに水辺の拡張を実施。

2012年



プラスチック池

2016年



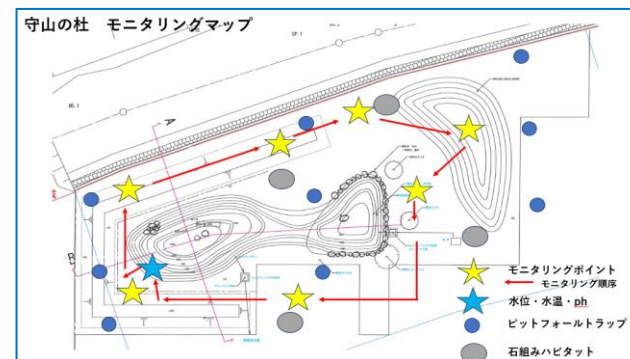
第一の水辺の創出

2021年



第二の水辺の創出

- ✓ 水供給源は、全て雨水が基本。水位管理を行い補給水は、井水を供給。
- ✓ 自然な状態を維持するため、ろ過装置などの設置による水循環は無し。
- ✓ 水位・水温・PHをモニタリングマップに落とし込み管理実施。



(14) 守山の杜 ご紹介のポイント 5 様々なステークホルダーで創る杜

DNP

- 行政（中部地方環境事務所、国土交通省庄内川河川事務所、なごや生物多様性センターなど）や有識者（金城大学、名古屋工業大学）からの助言や社員・家族が取り組みに参加。

国立大学法人名古屋工業大学 増田教授相談報告書⁴⁾

日時：2025年11月13日（木）10:00～11:10⁴⁾

場所：

相談者

相談内

先日

伺いし

増田教

確認し

弊社の

教授よ

種の草

たそれ

動にも

また、

く含ま

大学に

良いと

習弘先

4)

以上4)

なごや生物多様性センターに水中生物の保全の相談報告書⁴⁾

日時：2025年10月31日（金）14:30～15:30⁴⁾

場所：なごや生物多様性センター⁴⁾

相談者：梶田聖和氏⁴⁾

相談内容⁴⁾

DNPでは、以前ピオトープに池を創出する際に、なごや生物多様性センターに相談し、池で保全できる水中生物についてのご指導をいただいた経緯があります。この度、自然共生サイトの創出タイプでの申請に関する報告と、改めて池で保全可能な水中生物についてのご相談をさせていただきました。また、なごや生物多様性センターの敷地内にあるピオトープを見学させて頂き、植栽や水生生物の保全に関する考え方を指導頂きました。4)

以前のご相談では、トウカイヨシノボリの保全活動についてご相談しておりましたが、トウカイヨシノボリは生息地が限られており、また飼育環境には池に水流が必要などの特別な条件が必要であることから、弊社守山区周辺にも希少な絶滅危惧種1A類のカエルや、絶滅危惧2類ミナメダカなども生息しているため、これらの生物の保全活動も重要であるとの指導をいただきました。4)

また、保護活動においては、外部からの水中生物採取は地域環境に適応できない可能性が高く、遺伝的多様性を損なう恐れがあるため、弊社に隣接する庄内川からの採取が推奨されました。ただし、庄内川で採取した水中生物については、判別が難しい種も多いため、画像を通じてなごや生物多様性センターの梶田様にて確認していただくことをお約束して頂きました。4)

4)



水辺づくりに社員が参加



自然観察会に社員・家族が参加

行政、有識者からの助言
や生物の同定

4. 効果・外部評価について

- 昆明・モンリオール生物多様性枠組のビジョンである「自然と共生する世界」や生物多様性国家戦略2023-2030の目標である「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」に貢献していることの証明になります。

ネイチャーポジティブとは

2022年12月
生物多様性条約第15回締約国会議
(CBD-COP15)

昆明・モンリオール生物多様性枠組

2030年ミッション

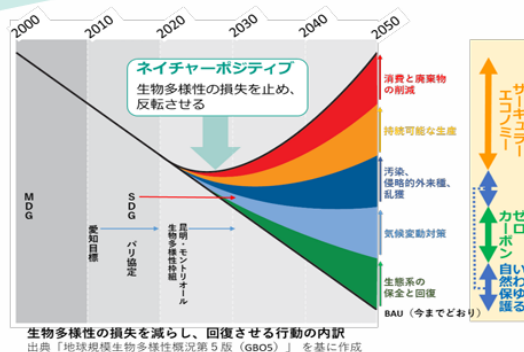
自然を回復軌道に乗せるために
生物多様性の損失を止め、反転させる
ための緊急の行動をとる

2050年ビジョン

自然と共生する世界
(a world of living in harmony with nature)

愛知目標から引き継いだ長期目標であり、我が国で培われた知恵と伝統に基づく考え方

ネイチャーポジティブ（自然再興）の考え方



生物多様性国家戦略2023-2030

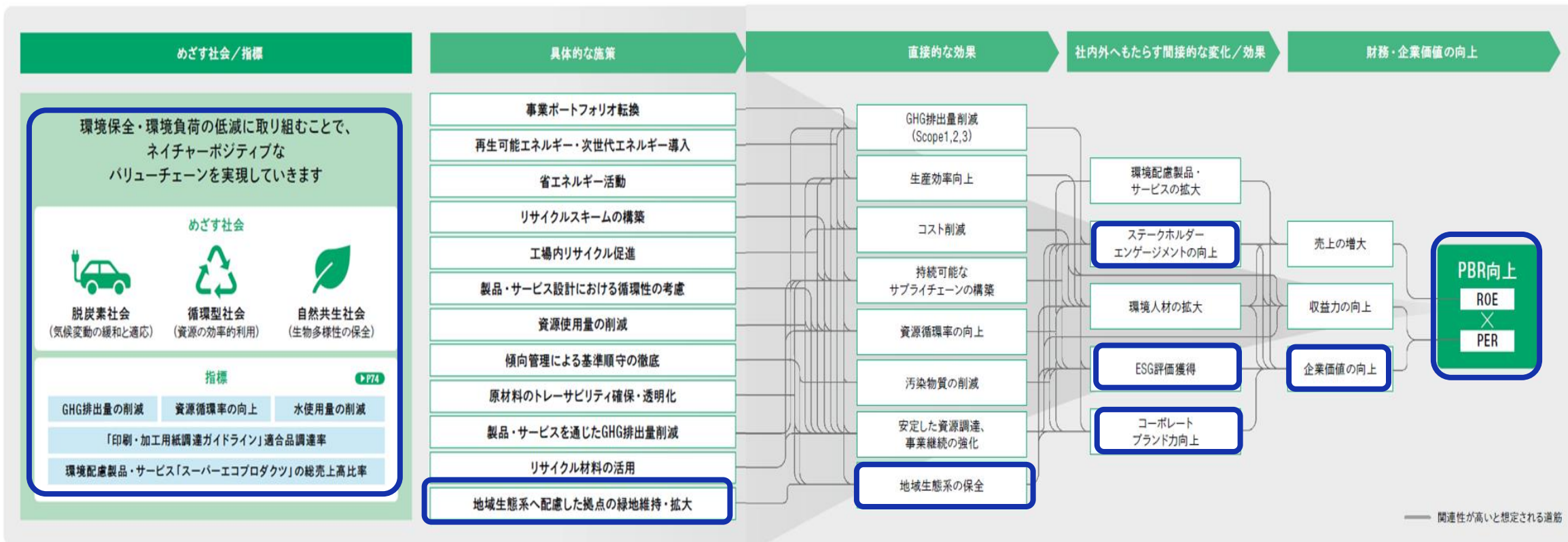
「2050年自然共生社会」「2030年ネイチャーポジティブ」の実現に向け、5つの基本戦略、基本戦略ごとの状態目標（あるべき姿）・行動目標（なすべき行動）、関連施策を各行動目標に紐づけることで、**戦略全体を一気通貫**で整理するとともに、進捗状況を効果的に管理



(出典：環境省資料から抜粋)

(1) 生物多様性保全活動に取り組む効果についてー2

- 環境（生物多様性の保全を含む）への取り組みを推進することで企業価値向上につながります。



- 経営計画達成のための非財務戦略の一つとして位置づけて活動を推進しています。

- [illegible]

2025年

2024年

2023年

(2) 生物多様性保全活動含む環境活動による外部評価について

DNP



2025年4月

CFP包括算定制度更新認証

認証：サステナブル経営推進機構
対象：Lデザ、情コミ・情イノ、イメージング、
生活空間・モビ事業部
製品：軟包装、出版印刷、プリンターメディア、
化粧シートなど



2025年4月

地球環境大賞 特別賞

主催：産経新聞
市谷の杜



2025年6月

EcoVadis Gold評価

主催：EcoVadis社



2025年6月

SBT 更新認定取得

認証：SBTi



2025年7月

CDP「リーダー・ボード」選定

主催：CDP



2025年10月

水循環ACTIVE企業 認証

主催：内閣官房
庄内川ペーパーなど



2025年12月

CDP ダブルA (気候変動・水)

主催：CDP



2026年2月

ESGファイナンス・ アワード

主催：環境省



2026年3月

自然共生サイト認定 「守山の杜」

主催：環境省、農水省、国交省

未来のあたりまえをつくる。

DNP



「未来のあたりまえをつくる。」はDNP大日本印刷の登録商標です。